

# 季節の室礼

季節を盛る 言葉を盛る 心を盛る

「室礼」とは一年の節目に、また人生の節目節目に“季節を盛る”“言葉を盛る”“心を盛る”ことを言います。行事とは行うことであり、先人の霊を招き、客人を招き、感謝の心を供すること。その時々季節にあわせて野菜や果物、花などを盛って、もてなしを形にし、心を込めて表します。



## 嘉祥菓子

梅雨時は湿気が多く、昔から

疫病が蔓延する季節と恐れられていました。

「嘉定（嘉祥）の儀」は、

旧暦の6月16日に16個の菓子（または餅）を供え、

それを食して疫病を祓うための風習でした。

写真は現代の和菓子をを用いた嘉祥菓子の盛り物。

水菓子（果物）の日向夏も加えました。

「水無月」という名のお菓子も用いています。

厄除けのうるこを模した三角形のうるこに

赤い小豆を散らした餅菓子で、

無病息災の願いが託されています。

## 山本三千子先生にお聞きしました

私が室礼の道に進むきっかけを作ってくくださったのが、松田妙子理事長です。「お華の会があるからいらっしゃい」と強く誘っていただきました。松田先生のお宅は、錚々たる方々が集う文化の交流サロンでした。気後れしながらも、南宋瓶華四世の故・田川松雨先生に学ぶうちに室礼にひかれていったのです。お華だけでなく、四季の衣食住にまつわるものを取り入れたいと、破門覚悟で申し上げたところ、田川先生からも、松田先生からも、「ぜひやりなさい」と後押しされ、「室礼三千」を立ち上げました。それ以来、室礼を通して日本人の心探しをやっています。ものが語る言葉を読みとる面白さ、知る感動。それは生きることそのものです。最近は大工育成塾の若い人たちが、目を輝かせて反応してくれることがとてもうれしいです。



山本三千子先生の著書：「室礼おりおり」(NHK出版)、「暮らしの室礼十二か月」(淡交社)、「[[四季の行事]のおもてなし」(PHPエル新書)ほか。

提供：室礼三千（しつらいさんぜん）

東京都杉並区浜田山3-16-5 Tel 03-3304-7020（火～土曜日午前10時～午後5時／日・月曜定休日）●体験教室もあります